

# “藤原一生杯”

## 第11回世界けん玉選手権大会

### 20年前の故藤原一生会長の思いを 10年がかりで夢の実現“藤原一生杯”に向けて！！

ワールドオープン実行委員会では本年、日本のけん玉界にとっても大きな歴史の節目の年ともいうべき、大イベントを企画することとなりました。

日本けん玉協会の初代藤原一生会長がお亡くなりになり今年の2月27日で18回忌となりました。藤原会長が20年前の1992年3月18日～26日にかけて、ビルボケ発祥の地フランスを訪問されて「ぜひ、来年はけん玉の世界大会をしましょう！」と約束をかわされたのを覚えています。



『アンリー三世から400年の歴史と伝統をもつビルボケと日本のけん玉の伝承活動の旅が行われました。その中でリヨネル・バンクレーム氏（ビルボケ研究家）とエッフェル塔をバックに、けん玉とビルボケの再会を果たしました。』

「けん玉通信」No.103 《特別号》会長パリへ行く！！から抜粋（1992年4月29日発行）。

【←ビルボケを持つリヨネル氏と藤原一生会長】

当時、私も含めて日本のけん玉界の皆さんも一大ニュースに驚き、けん玉の世界大会は日本から誰が参加するのだろうと驚きと感動を覚えていましたが、その夢が現実とならず、初代藤原会長は2年後にお亡くなりになりました。

私が、けん玉を初めて4年目でしたが、藤原会長の言葉は今でも鮮明に覚えています。「矢野君。君のような若い力が必要で関西を任せようと思っている。

、、、いいかね！」と突然の一言に、私の胸には、【タロ・ジロの大ポスターにサインをする藤原会長】藤原会長の思いを受け継げるのか不安でしたが、会長への信頼感とその使命感を感じ、今でも日本のけん玉界のために役立てたいと会長との約束を胸の中に秘めて現実のものへと温めてきました。

20年前の藤原会長の思いを現実のものにするために、昨年第10回ワールドオープンけん玉大会を経て、本年は名称変更し、“藤原一生杯”第11回世界けん玉選手権大会として、新たにけん玉を世界に広げるために実施することとなりました。

2012年は、ヨーロッパ大会のチャンピオンのスイス、オランダ、イギリス、ドイツなどから選手が参加します。また、アメリカやカナダからも参加をしたいと連絡を頂いています。ぜひ、初代藤原会長の夢を私たちの夢として、大会を成功させていこうとワールドオープン実行委員会のメンバーが決意を新たにしています。





第1回大会の参加者(2002年)



もしかめ世界大会(2006年)

フラビーオ選手【モザンベーク】8時間達成



「オーサカキングとコラボ」  
特設ステージにて(2008年)



第10回大会の様子(2011年)

2002年第1回大会は、たしか日本人26名だけの参加でスタートした大会でした。第2回大会からモンゴルから選手を招待し、当時は20代の仲間が1週間~2週間、徹夜をしながら手作りの大会をしようと取り組んできました。

「10年たって一人でもええやん、海外から選手が参加してくれたら！集まらなかったらやめたらええねん、また、新しい大会を企画したら！」と言いながら、全国のけん玉愛好家、けん玉ファン、当初から本部協会の奥住先生、後に松永理事長、山木専務理事、堤さん等、個人としても多くのご協力頂きまして誠にありがとうございます。

また、モンゴルとの信頼関係を築き上げてきたのは広島の今田先生をはじめ乙吉先生、砂原先生でもあります。その流れを広島大学DAMAけんメンバーや全国の若い青年たちがモンゴルの“けん玉の和”をつないでています。

昨年はワールドオープン実行委員会の創設者の一人で当時は立命館大学けん玉サークルの嶋寺氏(千葉)、現在実行委員会の中心メンバーである向井氏(和歌山)がヨーロッパのけん玉大会に参加し、世界とのけん玉のパイプを広げてくれました。

第10回大会で、「来年は世界から大阪にけん玉の仲間が集まること」を期待しワールドオープン実行委員会より、向井氏にけん玉をヨーロッパ大会に持参していただきました。

今年は、初代藤原会長が夢にまで見た「世界けん玉選手権大会」を現実のものにしようと世界からけん玉のプレーヤーが大阪に集結します。

さらに、全国、全世界からけん玉ファン、愛好家の皆様、故藤原一生会長の夢にまで見た、世界大会へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ワールドオープン実行委員会  
委員長 矢野博幸  
2012年(平成24)5月1日